「桜川市のサクラ」写真コンテスト

市長賞（グランプリ賞）
『朝霧に桜映える』

商工会長賞
『新緑と桜のパッチワーク』

観光協会長賞
『富谷公園の八重桜』

サクラサク里賞
『春色のひかり』

入選
『サイクリング』

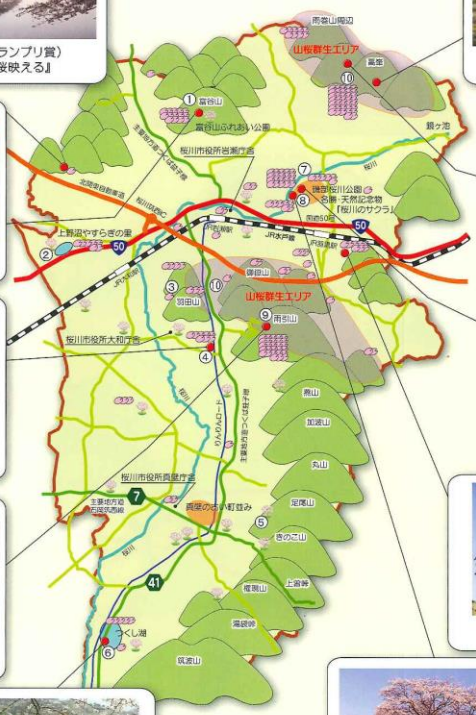
入選
『春の一日』

入選
『雨引山の桜』

入選
『大山桜咲く』

特別賞（磯部神社賞）
『つくし湖の春』

入選
『一本桜』



『桜川市のサクラ観どころまっぷ』は、桜川市・桜川市商工会・桜川市観光協会共催の『桜川市のサクラ』写真コンテスト＆第4回サクラサク里山桜写真コンテストに寄せられた情報を参考に作成しました。掲載している写真の一部は、コンテストの入賞作品です。
【2009.3～2009.5実施】

『桜川市のサクラ』紹介

①富谷山ふれあい公園の桜

桜川市富谷の富谷山小山寺（富谷観音）のすぐそばにある公園です。高台であるため市内を一望することができ、天気の良い日には富士山も望むことができます。その眺望から国の「関東富士見100景」に選ばれています。公園内には八重桜が植樹され、春には市民の憩いの場となっています。

②上野沼の桜

上野沼の湖畔にあるやすらぎの里は、四季を通じて水辺の自然とふれあえる憩いの場所です。園内には木のぬくもりの伝わるケビンをはじめ、ゆったりとしたオートキャンプ場もあり、家族や友人と楽しいひとときを過ごすことができます。また、多目的運動広場やテニスコートもあり、子ども会や職場のレクリエーションに最適です。水面に映える湖畔沿いの桜並木が見事です。

③薬王寺（やくおうじ）周辺の桜

薬王寺のある桜川市青木地区では、江戸末期に二宮尊徳の「青木仕法」により桜川に堰が築かれました。薬王寺の山門には、大正時代の大改修により撤去された青木堰の用材の一部が用いられるなど、尊徳の偉業を現代に伝えています。お寺の脇にある染井吉野や陽光を楽しむことができ、周辺の里山では山桜も楽しめます。最近は秋のモミジの紅葉も人気となっています。

④りんりんロードの桜

つくばりんりんロードは、旧関東鉄道筑波線の鉄道敷を利用して整備された土浦と岩瀬を結ぶ全長40kmのサイクリングロードです。旧駅敷地を利用した休憩所には染井吉野の古木があり、春には桜の花を楽しめ、夏には木陰がハイキングやサイクリングを楽しむ人々にも親しまれています。

⑤みかげスポーツ公園

伝正寺の近くにある「みかげスポーツ公園」は、全天候型のテニスコートや芝のゲートボール場があり、子どもからお年寄りまでスポーツに親しむことができます。すぐそばに「レストハウスみかげ」があり、喫茶や食事を楽しむことができます。テニスコートを囲むように植えられた染井吉野が見事です。

⑥つくし湖の桜

筑波山の麓にある「つくし湖」は、平成4年に完成した霞ヶ浦用水の人造湖です。湖面を取り囲むように桜が植樹され、桜と筑波山の眺望を楽しめる新しい名所となっています。

⑦、⑧磯部稲村神社周辺・磯部桜川公園

○国指定文化財・名勝『桜川』 ／ 大正13年12月9日指定桜川市磯部の磯部稲村神社の参道をはさんで、両側約1kmに及んで桜の並木があり、古来磯部の百色桜として、桜の名勝となり、吉野に次いで名高かったといわれています。東北産の品種白山桜を中心として、花の色、香りなどに富、学術的に貴重な存在です。現在、巨樹は殆んど枯死し、染井吉野、山桜などを補植したものです。後撰集には紀貫之の「常よりも春辺になれば桜川　波の花こそ間なく寄すらめ」があり、その他多くの歌に詠まれています。また、世阿弥元清の作である謡曲「桜川」は、この地を題材にしたものです。桜川市山口の鏡ケ池に源を発する桜川は、台地の北麓から西へ流れ、筑波を経て霞ケ浦口にそそぐ川です。

○国指定文化財・天然記念物『桜川のサクラ』 ／ 昭和49年7月16日指定磯部稲村神社の参道の両側約1kmの外、市有地約5,500㎡内の桜、約500本に及ぶ白山桜の群で、桜川匂、樺匂、梅鉢桜、白雲桜、薄毛桜、初見桜、初重桜、源氏桜、大和桜、青毛桜、青桜の11種が品種指定されています。従来の名勝にあわせて、これら品種の保存を図るため天然記念物に指定されました。磯部稲村神社は、その参道や神社が座す丘の斜面に多くの山桜が見られ、桜の名所として広く知られてきました。ここの山桜は東北地方に産する白山桜で、淡紅色の花ばかりでなく芽ぶき時の赤芽も見事です。また、隣接する岩瀬東中学校の山桜も見事です。

⑨雨引山（あまびきさん）の桜

雨引山の中腹に位置する雨引観音は、「一に安産 二に子育よ、三に桜の楽法寺」と称され、桜の名所としても知られています。境内には染井吉野、河津桜など多種の桜が植えられ、また周辺には山桜が多数自生しています。開花時期が異なるため長い期間桜花を楽しむことができます。6上旬から7月上旬にはアジサイも見ごろとなります。

⑩里山の山桜（雨巻山（あまきさん）周辺、高峯（たかみね）、御嶽山（おんたけさん）、雨引山、羽田山（はねだやま）周辺）

桜川市の山々には、山桜が多数自生しています。山桜は染井吉野と比べ開花時期も若干遅く、桜花の淡紅色と赤芽が木々のもえぎ色の芽ぶきの時期と重なり、パッチワークのような眺望を楽しむことができます。また、古来より桜の名所として知られていたことから、江戸時代には歴代将軍により隅田川堤、玉川上水などに植樹されてきました。水戸市の桜川は、かの水戸光圀公が当地の桜を気に入り、桜木を数百本移植したことを機に桜川としたものと伝えられています。